

富樫館跡 I

—集合住宅建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

1998年

石川県野々市町教育委員会

例 言

- 1 本書は集合住宅建設に係る富樫館跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は集合住宅の建設事業者の塩田 卓氏（個人開発）より委託を受け野々市町教育委員会が実施した。
- 3 調査地は石川郡野々市町住吉町175番地、調査面積は220㎡である。調査は平成9年6月4日から6月18日にかけて実施し、出土品等の整理作業は平成9年10～11月に実施した。
- 4 発掘調査は吉田淳・永野勝章（野々市町教育委員会文化課）が担当した。
本書の作成は吉田が担当した。
- 5 調査の作業は、以下の方々の協力を得た。
現場作業 大瀬戸武夫 川村和夫 小松義一 浜田五郎 浜野光蔵
整理作業 増山明美
- 6 本書の各図・写真図版の指示は以下のとおりである。
 - (1) 本書での遺構・地図等の方位はすべて真北を表示し、水平基準は海拔高である。
 - (2) 遺構名の略号は次のとおりである。
掘立柱建物（SB）・柱列（SA）・土坑（SK）・溝（SD）・ピット（SP）
 - (3) 遺物写真図版番号と実測図番号は対応する。
- 7 本遺跡の出土遺物、記録資料は当町教育委員会が保管している。
- 8 調査にあたって、開発者の塩田卓氏には多大な御理解と御協力をいただいた。感謝の意を表するものである。



第1図 周辺の遺跡(1/25000)

1 遺跡の位置と環境

石川県野々市町は石川県の中央部金沢市に南郊し、西は松任市、南は鶴来町と接する南北6.7km、東西4.5km、面積13.56km²、人口4万3千人の平野部の町である。

富樫館跡は野々市町で開発が最も早く進んだ本町2丁目・住吉町地内に位置する。周辺には町役場をはじめ、大型店舗、金沢工業大学がみられ人々の活動は活発である。

調査地は県道室・野々市線と都市計画街路八日市・額新保線の交差点から南へ約220mの地点にあたり、標高20mを測る。

遺跡周辺における人々の生活は、現在のところ縄文時代後期中葉までさかのぼれることが馬替遺跡（01400）により確認できる。弥生時代にはいとその後後半段階には高橋セボネ遺跡（16041）において集落が形成される。古代では平安期の扇が丘ハワイゴク遺跡（16043）や、扇台遺跡（01121）などがみられ、この時期に周辺の開発が進んだことを物語るものであろう。中世には富樫氏の関係と

考えられる遺跡が増加し、扇が丘ゴシヨ遺跡（16042）・ハワイゴク遺跡・高橋ウバガタ遺跡（16040）などが本富樫館跡の周囲に存在する。また富樫氏の山城である高尾城が東南方向に2km離れた富樫丘陵上にひかえ、北方1.3kmには富樫系武士団押野家善の居館である押野館跡（16035）がみられる。

これまでに富樫館跡の調査が今回のような小面積でいくつか実施されているが、注目は平成4年実施の調査における館の周囲を巡る堀跡の発見である（第3図・A地点）。館跡の遺構としては唯一の検出例であり、位置の確認は重要な成果である。



第2図 野々市町位置図
(1/3,000,000)

遺跡地図凡例「石川県遺跡地図」1992より

野々市町	金沢市
16008 栗田遺跡（縄・奈・平）	01114 高尾天天堂遺跡（平）
16023 三林館跡（奈）	01115 高尾新町遺跡（奈・平）
16035 押野館跡（空）	01116 高尾新マトバ遺跡（奈・平）
16036 押野タチナカ遺跡（縄・弥）	01117 窪遺跡（古・中）
16037 押野ウマワタリ遺跡（弥）	01118 高尾イシナ塚遺跡（古）
16039 富樫館跡（中）	01119 高尾公園遺跡（平）
16040 高橋ウバガタ遺跡（弥）	01120 大願キョウデン遺跡（？）
16041 高橋セボネ遺跡（弥・奈）	01121 扇台遺跡（弥・平）
16042 扇が丘ゴシヨ遺跡（弥～中）	01123 久安トノヤシキ遺跡（古）
16043 扇が丘ハワイゴク遺跡（縄～中）	01124 久安さんまい川遺跡（平）
金沢市	01128 有松C遺跡（縄～古）
01008 高尾城跡（空）	01129 有松A遺跡（縄）
01107 高雄山寺遺跡（？）	01130 寺地シンドロ遺跡（古～平）
01108 狐青横穴群（古）	01131 寺地向田遺跡（奈）
01109 高尾古墳（古）	01132 円光寺向田遺跡（奈・平）
01110 高尾B遺跡（奈）	01133 円光寺B遺跡（縄）
01111 高尾ジョウザパロウ横穴（古）	01134 寺地B遺跡（奈・平）
01112 高尾A遺跡（奈・平）	01135 寺地A遺跡（縄・奈・平）
01113 高尾C遺跡（弥・古）	01400 馬替遺跡（縄）



第3図 調査区位置図(1/5000)

2 調査の経緯と経過

富樫館跡地内は住宅や集合住宅など小規模の開発が点々と行われていたが、昭和62年(1987年)に最初の調査が実施されている。この後小規模な開発に伴い数件の調査が続き、遺跡の状況の一部についてようやくわかりつつある。また遺跡地内において数は少ないが水田が点在しており、今後の開発を待つ状況が続いている。

今回の調査の原因となる集合住宅の開発行為については平成8年末に野々市町教育委員会に照会があった。周知の遺跡内の開発であり、発掘調査が必要となることから開発者と協議を重ね、平成9年4月に遺跡の状況を知るための確認調査を小型の掘削機により行っている。溝条の遺構やピットを確認し、地山は東側へ向かい落ち込んで行くことから開発地東半分に旧河道の存在が推定された。この段階で調査実施を双方確認し、平成9年6月2日に開発者と野々市町教育委員会は受委託の契約を結んだ。調査区は駐車場と河道部を除き設定し

た。平成9年6月4日より調査を開始し6月18日に終了した。調査では掘立柱建物2棟、柱列1基、土坑5基、溝2条を検出し、220m²の小面積ながら一定の成果を得た調査である。

3 遺構と遺物

西側トレンチ状の調査区をA区、北側トレンチ調査区をB区、東側のやや広い部分をC区としている(第4図)。検出した遺構のうち近世から耕地整理以前の溝SD01を除いた他の遺構は中世後期に属する。

(1) 掘立柱建物・柱列

SB01(第5・7図) C区北側に位置し、過半は調査区外である。柱穴はP1~P5であり、1間×3間を検出し規模は不明であるが、中世後期であり乗行1間の可能性が高いと考えている。P2~P3柱穴間は3.4m、P3・P4・P5間は2.2m・2.3mである。方位はN57°Wである。柱穴はほぼ円形で径30~40cm、深さ40~70cmでばらつく。P1より土師器1が出土した。15世紀代の所産か。

SB02(第5・7図) C区西端に位置し、過半は調査区外である。桁行3間の検出である。桁行P1~P4は1.35m・1.7m・2.45mの計5.5mを測る。方位はN1°Eのほぼ真北となる。柱穴は円形で径32~40cm、深さはP3が70cmと深い他は25~30cmである。P4より2の行火片が出土した。軽石凝灰岩製の前面に開口するタイプの製品で、14世紀末~15世紀中葉頃のものとされている。

SA01(第5図) B区西側に位置し、柱穴3個の2間部分を検出している。柱列または掘立柱建物となるかは不明である。P1~P3の柱穴間は3.45m・2.8mの計6.25mを測る。方位はN80°Eである。柱穴は円形で径35と40cm、深さはP2が72cmと深い他は40cmである。遺物なし。

(2) 土 坑

SK01 (第6・7図) A区北側に位置し1/3程度の検出であるが、調査区の東は攪乱を受けている。推定規模は径3mほどか。深さは35cmを測り、掘り方は緩い傾斜をもつ。出土遺物は土師器細片が僅かにみられ、3を図示した。15世紀後半頃のものか。

SK02 (第6・7図) B区東側に位置する。平面楕円形状を呈し長さ1.43m、幅1.05m、深さ21cmを測る。出土遺物は、図示した4の瀬戸の末広碗がみられ、14世紀末頃～15世紀初頭のものか。他は土師器細片である。

SK03 (第3・7図) B区SK02の東1mに位置する。平面楕円形状で長さ90cm、幅45cmを測る。深さは6cmと浅く落ち込みの可能性が高い。後期と考えられる縄文土器片5が出土した。

SK04 (第6・7図) C区北側ほぼ中央に位置する。細長い長方形形状を呈し、SB02と同じ方向性をもつ。長さ4.1m、幅80～92cm、深さ33～45cmを測る。遺物は瀬戸の細片であるが天目茶碗6と碗7が出土した。8・9は土師器で8には油煤痕がみられる。10は陶器底部片であるが不明。時期は14世紀末～15世紀中葉か。

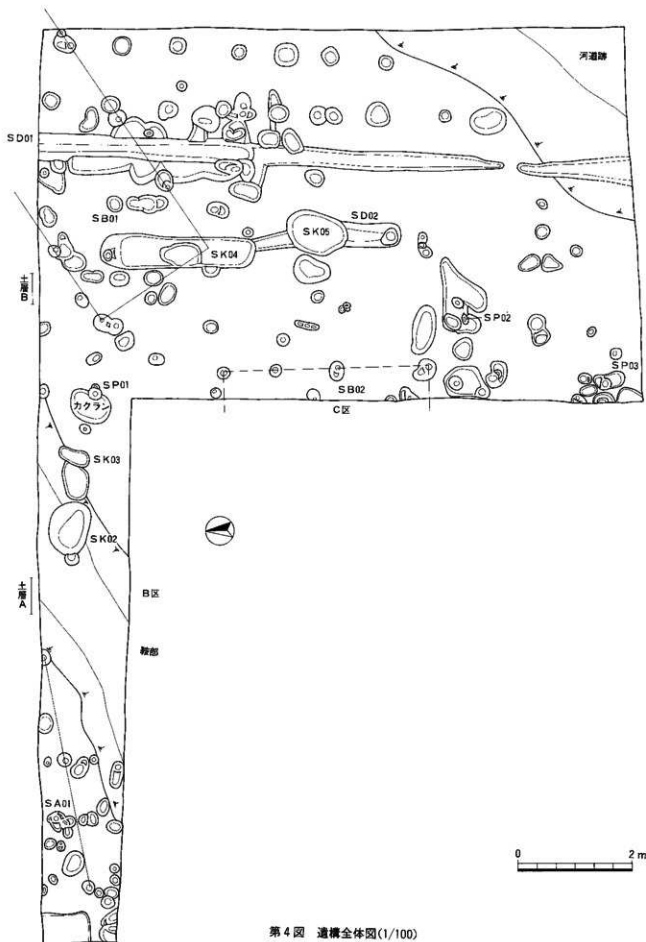
SK05 (第6・7図) C区SK04の南1mに位置する。平面楕円形状で長さ1.65m、幅短辺1.06m、深さ12cmを測る。14世紀後半の遺存度の高い土師器11が出土した。

(3) 溝・その他

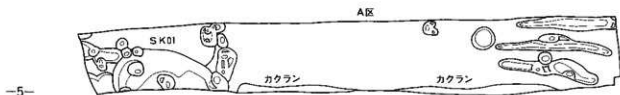
C区南北溝のSD01は近世以降耕地整理以前の水田耕作に関するものと推察している。幅70cm、深さ20cmを測る。遺物は中世期の細片が混入するが、17～22を図示した。近世土師器の17は油煤痕をもつ。碗18は明治期か。19・20は肥前磁器の皿である。19は油煤痕をもち、20は内面蛇の目釉剥ぎがなされる。17世紀末～18世紀前半であろう。21は陶器の土瓶、22はセットとなる陶器の蓋である。19世紀代の製品であろう。SD02はC区中央に位置し、SK04・05に切られる。幅35～60cm、深さ6～9cmと浅い。越前の甕細片が出土した。そのほかSP01より土師器12、SP02から轆羽口片13、SP03から鉄滓14、河道跡より土師器15が出土した。16はC区包含層?からの出土で、須恵器質の陶片であり、何かを擦ったと思われる径9mmの半円状の溝ができていて、溝内には間隔1mmほどで縦方向の筋が見られる。なお、C区東側でピットが南北方向で2列に並ぶが、これは現代の畑作によるものである。

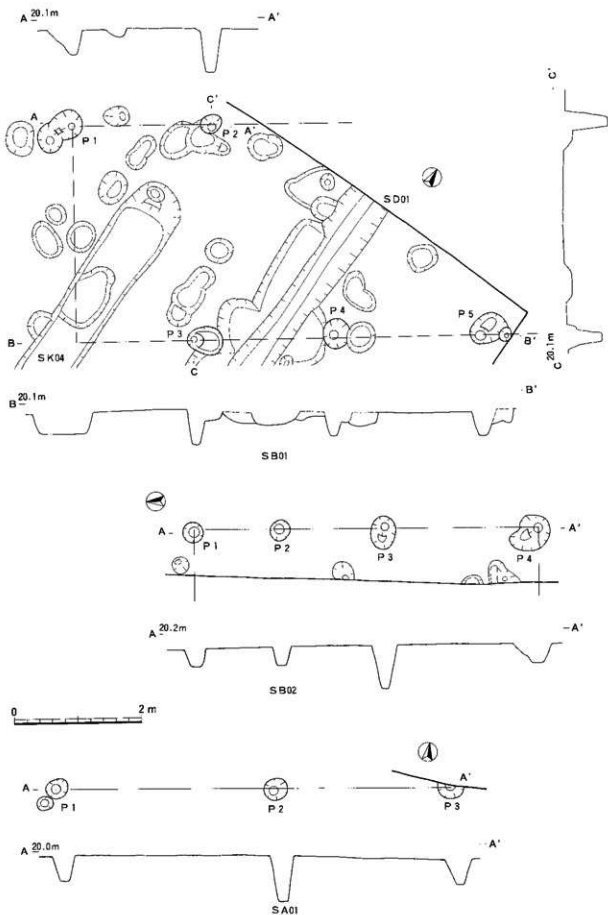
出 土 遺 物 一 覧 表

番号	出土地点	器 種	法量(mm)、(推定)	番号	出土地点	器 種	法量(mm)、(推定)
1	SB01P1	土師器	口径 85	12	SP01	土師器	口径 94
2	SB02P4	行 火		13	SP02	轆羽口	外径(66)内径(32)
3	SK01	土師器	口径 105	14	SP03	鉄 滓	長55 幅33 重49g
4	SK02	碗(瀬戸)	口径(160)	15	河道跡	土師器	口径 87
5	SK03	縄文土器		16	C区包含層	不 明	長59 幅43 厚13
6	SK04	天目茶碗	口径(120)	17	SD01	土師器	口径 120
7	SK04	碗(瀬戸)	口径 111	18	SD01	碗	口径 114
8	SK04	土師器	口径 67	19	SD01	皿	口径 140
9	SK04	土師器	口径 71	20	SD01	皿	高台径 48
10	SK04	底部(不明)	底径 130	21	SD01	土 瓶	口径128 胴径169
11	SK05	土師器	口径 103 底径 65 器高 23	22	SD01	蓋	口径114 底径 33

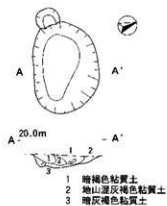
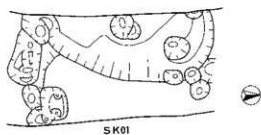
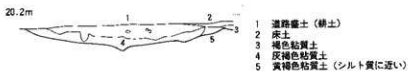


第4図 遺構全体図(1/100)

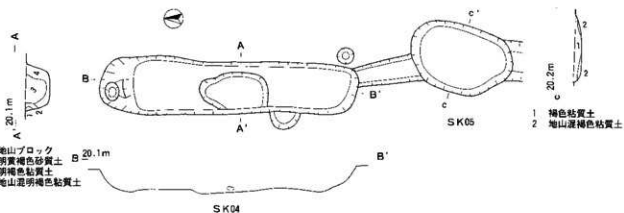




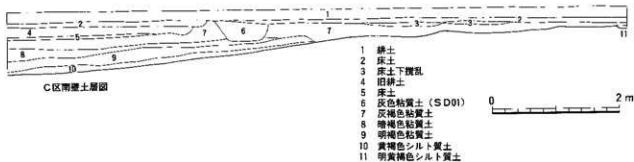
第5圖 主要遺構圖1 (1/60)



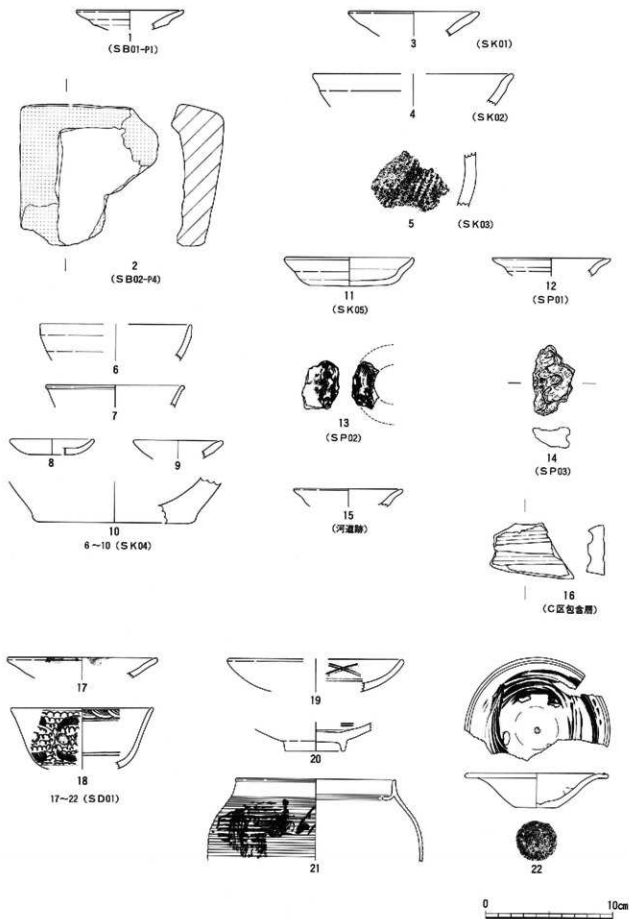
SK02



- 1 耕土
- 2 明灰褐色粘質土
- 3 暗褐色粘質土
- 4 褐色砂質
- 5 黄褐色砂質土



第6図 主要遺構図2 (1/60)

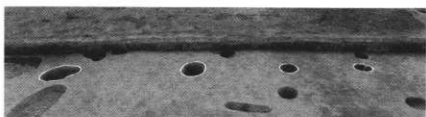


第7圖 出土遺物(1/3)

遺構図版



C区近景 (北より)



SB02 (東より)



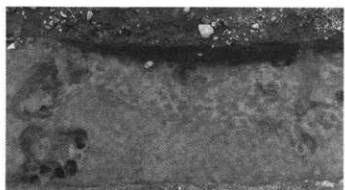
SK04 (北より)



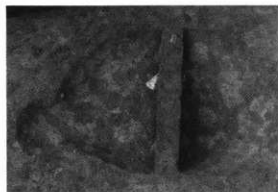
B区・SA01 (西より)



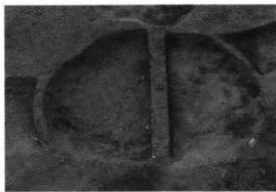
SB01 (南西より)



SK01 (東より)

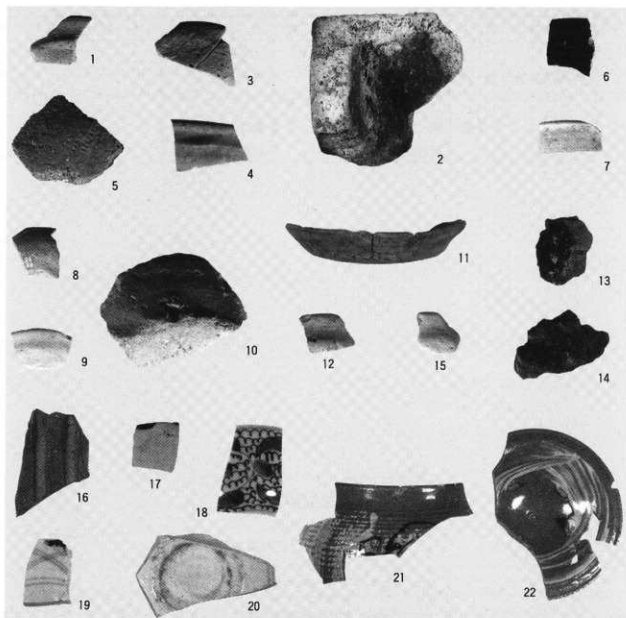


SK 02 (南より)



SK 05 (東より)

遺物図版



報 告 書 抄 録

ふりがな	とがし								
書 名	富樫館跡 I								
副 書 名	集合住宅建築に係る埋蔵文化財発掘調査報告書								
編 著 者 名	吉田 淳								
編 集 機 関	野々市町教育委員会								
所 在 地	〒921-8815 石川県石川郡野々市町本町5丁目4-1 TEL 076-246-2344								
発 行 年 月 日	1998年3月31日(平成10年)								
ふりがな	ふりがな	コ	ー	ド	北緯	東経	調査期間	調査	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	***	***			面積	
とがし	いしかわけんいしかわぐん				36度	136度	1997年6月4日		集合住宅
富樫館跡	石川県石川郡	17344	16039		31分	37分	}	220m ²	建築に伴う
	ののいちまち すまよし				34秒	34秒	6月18日		緊急発掘
	野々市町住吉町								
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項				
富樫館跡	館 跡	室 町	据立柱建物2 柱列 1 土坑 4 溝 1	土師器 中世陶器					
	その他	縄 文 近世以降	土坑? 1 溝 1	縄文土器 近世陶磁器					

富樫館跡 I

1998年3月31日

発行所 野々市町教育委員会

〒921-8815

石川県石川郡野々市町本町5-4-1

TEL076-246-2344

印刷 北國書籍印刷株式会社